

令和2年度第3回四万十町立図書館協議会会議録（要旨）

日 時 令和3年3月26日（金） 10時～12時
場 所 四万十町役場 東庁舎2階 多目的小ホール

出席委員 竹村君子、刈谷明子、金子仁、岡田実智男
欠席委員 武内文治
事務局 生涯学習課課長兼図書館館長・林瑞穂、総括主幹兼図書館副館長・竹内由美、
長木千葉美、谷脇八代美、山口香、山地順子

－議題－

議題① 2020年度 図書館の活動について ～振り返り～

【事務局より、2020年度 図書館の活動について報告】

【質疑応答】

（刈谷委員）

質問というか要望なんです、各事業に対しての参加人数、連続講座とかえほんのことは何か参加してもらおうようなイベント等に関して、参加人数の報告がないと何とも検討しづらいというがあるので、次回からの資料では参加人数を知りたいなと思いました。

（図書館）

口頭ですが、連続講座は第1回目8名、2回目8名、3回目25名の参加がありました。えほんのはこは10名前後の参加があります。

（竹村会長）

来年度の事業計画にその人数を活かしていくという前回からの継続がありました。ご質問、ご意見含めまして何かありましたらどうぞ。

（金子委員）

4ページの⑨の学校支援の中の資料貸し出しなんです、去年に比べたらリクエストを受付した学校の数が増えているのですが、何か理由があったら教えてください。去年の資料を見ると、本館は窪小と東又小の2校だけで、大正分館は大正中の1校なんです、今年度になると本館7校に増えているので、何かの影響があったのなら教えていただきたいと思いました。

（図書館）

大正分館から説明します。図書主任の先生の異動がなかったことと、図書館との付き合いが密になったことで気軽に声をかけやすくなったのかなと思います。こちらも年度始めには声をかけています。コミュニケーションと言いますか、その辺りがうまくいったのではと思います。

(竹村会長)

こういう事業をやっていますよというのを知られてないと。

(図書館)

1年目の先生じゃなかったのもあると思いますし、学校の教科書の変わり目もありまして、新しい取り組みというのもあってその依頼も多かったのかなというものもありました。

(金子委員)

学校が図書館をというのではなく、教科書が変わったということか。

(図書館)

はい。内容が新しくなり、教科書が変わって項目も変わったので。

(竹村会長)

ということは、図書館に教科書がありますか。ないですね。

(林館長)

教科書については改訂時に、教科書センターが展示をすることになっていて、教育研究所がありますので、改善センターのじゅうくに行く通路の所に教科書センターと称して今の教科書を展示している状況です。住民の方からの要望もありましたので、新しい図書館の中に配架の中で工夫して、新しい教科書を展示していくという方向で協議をしていきたいと内部的には考えているところです。

(竹村会長)

図書館に置いておくということですか。

(林館長)

はい。教科書センターという形で。皆さんに、今使っている教科書がどのようなものなのかということを見せていくことも必要ということで。県内にも梶原町の雲の上の図書館でも、図書館のコーナーの一部として置いているところもありますので、そういうところも参考にしながら、今後やっていければと考えています。

(竹村会長)

改善センターの教科書センターは、教科書の選択をするためのところですよ。そこから教科書してもらい受けて図書館に置くということですか。

(林館長)

どこに置かなくてはならないとかではなく、こういう時に教科書センターを占有しておくという場所が国か県かな、そういう形になっていますので、そういう場所を配架の工夫で図書館内に置ければいいかなと考えています。

(竹村委員長)

教科書を購入して図書館に入れるというのではなく、センターの展示品を図書館に置かせてもらうという訳ですか。

(林館長)

そうです。今使っている教科書です。選定の際は各社きますが、選ばれなかったものは別にして、選ばれたものを現在使っているということで展示する。

(竹村会長)

見本と書いたものがくる。いいことだと思います。図書館にあるのは。

(金子委員)

アンケートの集計結果というものを今渡してもらっていますが、これについては今更なんですけど、このアンケートがどういうふうアンケート用紙があって、書いて入れる形式なんですか。10代男性「わからん、わからん」とあるが、わざわざ書いて入れるんですよね。わからんけど書いて入れたと。

(林館長)

これについては後で説明しようと思ったのですが、中高生、若い方の意見を聞きたいということで、じゆうくへ来ている学生さんに手渡しで渡して、図書館について新しくなることについてどう思いますかと依頼して返ってきた分をまとめたものです。

(金子委員)

来てくれた人が自発的に書いたものでなくて、こちらから投げかけて返って来たものだと分かりました。全部が10代ですか。

(図書館)

14番までがじゆうくです。15番は違います。

(刈谷委員)

アンケートについて1月の集計結果、本館、大正分館もあったのですが、今後も継続して置くということで、この集計結果を館内に活かすということの主旨でしょうか。

(林館長)

質問があったので、質問のお答えを協議していこうかなと思ったのですが、このアンケートは、基本的に事務局の方で受け止めて、それに対して改善すべきところは改善していくところでやっておりましたが、前回お配りしましたように、協議会の委員さんも共有させていただいて、その後の改善点とか、こういうご意見がありましたということを共有していこうかなというところなんです。前回出ていました改善点についてはご報告させていただこうかなと思っております。

(竹村会長)

わからないという表現もありますが、よく読んでいるとこんな図書館だったらいいという言葉があります。この件は後程。他にいかがでしょうか。

(刈谷委員)

今年コロナになってから閉館とか部分的な開館とか、これまでと違ったことがたくさんあったと思うのですが、業務に関して全体的に館内の様子であるとか、業務内容の変化であるとか職員の方からこれは大変だったということがあればお聞きしたいのですが。

(竹村会長)

来年度も引き続きの傾向がありますので、その辺りよろしくお願いします。

(図書館)

お子さんのお話し会もなくなりましたので寂しい思いもありながら、利用者さんにも意識しながらマスクをして密にならないように配慮するのも大変なので、イスを少な目にするとうイスがないなどありながら、勉強する時に密にならないように中学生に声をかけ、一緒に来ているけど離れてもらって勉強してもらおうなど、ずっと見ていて苦しくなるような場面もありました。館内の様子はそんな感じです。

(竹村会長)

全体の来館数とかはいかがですか。大まかでもかまいませんので。

(図書館)

落ちています。

(竹村会長)

クローズではないかと最初から思ってしまう部分がありましたよね。何もかもストップになりました。

(図書館)

大正分館も同じ感じです。今、イスを減らしているので、テーブルが畳の上と机があるのですが、2個にしている3人来ると1個ないとか。放課後は子ども達が来るので、マスクをしていない子どもさんが気になったのでマスクを用意してもらって、持っていないと配るなどそんな感じです。

(図書館)

捕捉ですが、利用者さんが来られない時間帯がありますので、昨年度、個人的に寄贈してもらった約800冊の本を登録して新しく棚に並べて整理することができました。なかなか自分たちの選書で買えないような入門書以降の哲学、自然科学が多かったなので、奥が深くできたというかかさ上げができたと思います。

(林館長)

要望の中で先日、3月議会で図書の消毒器を買えないかと一般質問の中でも要望がありました。県外では、本の消毒器、一度に6冊くらい紫外線で消毒するような機械をコロナ対策補助金で買うようなケースもあったりしています。うちも買えないかと要望はしたのですが、まずは緊急度の高いものからコロナ対策していく必要があるのではないかとということで、引き続き要望はしていくつもりです。一番効果的なことは手指消毒ということで、館内に入る前に消毒をしてもらって、出ていく時も消毒をしていただくことで基本的には大丈夫ではないかということになりますので、徹底していくということで確認はしたところでした。

(刈谷委員)

返却された本は、拭いて棚に戻すという感じになっていますか。

(図書館)

カウンターとかの消毒は、開館前、閉館後、密になった時など、その都度行ってはいます。会議室、多目的室は必ず消毒を行っています。手すり、トイレ、電気のスイッチも気にしています。

(林館長)

紙の場合は、一般的に24時間たてば不活化すると言われています。コーティングしたところは72時間という話もあります。スペースがある所々では72時間置くというところもあるとは思いますが、新刊本であるとか、予約本であるとかあるので、72時間置いて次に棚に戻すというのはなかなか難しく、できていないというのが現状です。

(竹村会長)

予算、高いものでしょうか。

(林館長)

1台90万円くらいです。

(竹村会長)

これ、ものすごいピーアールになりますよね。コロナのこの時期でも図書館に行ってみようかと。安心安全に、はっきりと通じていくような感じがします。

(林館長)

館内、配架されているものを全部そこに通すというのは物理的に難しい話なので、運用となると借りていく人が自分のために消毒器に通して帰るといった形での運用になるかと思います。

(竹村会長)

図書館の運用予算で90万は大きいのでしょうか。

(林館長)

大きいです。本館、大正分館、十和にもということになれば大きいので、要望した時期が緊急度の高いものからということでしたので、全くだめということではないので、引き続き要望はしていきたいと思っています。

(竹村会長)

予算がんばっていただいて、他にいかがでしょうか。では、提案、報告していただいた振り返りについては、これで終わりにしてよろしいでしょうか。思い当たる事が出た時に言っていただければと思います。

(刈谷委員)

今年度いろいろ中止になりましたけど、来年度以降は徐々に様子を見ながら、もともとあったものは開催できる形として進めていくのでしょうか。

(林館長)

コロナの付き合い方が今年の今頃と比べると、どうしたら大丈夫なのかがだんだん見えてきたというのが今の状況なので、配慮しながらできる部分はできるだけやっていきたいと考えています。

議題② その他

(竹村会長)

議題のその他にうつりたいと思います。提案ございますか。

(林館長)

3種類の資料をお配りしました。1月29日から2月10日にかけての文化的施設の住民説明会ということで、この資料をもとに住民の皆さんに説明をさせていただきました。一枚物のカラーパンフレットもお配りしております。これについては3月の区長行きの回覧で、文化的施設についてはこういう形で進めていますという全戸配布という形でお配りしたものです。最後にお配りしたものが、令和3年度の新しい文化的施設の整備推進室というものを4月以降立ち上げることで、体制について今決まっている部分について報告させていただくということで、お配りさせていただいております。住民説明会については、おいでの方もおりますが簡単に説明させていただきます。

【事務局より、文化的施設住民説明会の説明】

(竹村会長)

ご質問ございますか。基本的なところの質問なのですが、通り抜けられる道のイメージという言葉がありますが、本当の入り口、玄関、エントランスはどこになりますか。

(林館長)

進入路は左の端の方になります。アプローチ、風除けの部屋があって、雑誌コーナーがあって、エ

ントランス、図書コーナーがあって、このあたりが一番入っていく入り口になってくると思います。

(竹村会長)

前面ですか。

(林館長)

横長というか、細い横長のエントランスで、正面の方にも図面で確認はしてないですが、突き当たったところにも。先ほど言ったところがメインになります。もう一つ半平側にも入口があります。半平ともやり取りが想定されますので、上の方、風除けのところも入り口になります。

岩本寺側にも入り口が想定されています。基本的に3か所から出入りができるようになっています。

(竹村会長)

風除室と書かれているところが玄関なんですね。エントランスの図書コーナーという所は、風除室から入りますとすでに書架があって、そこを抜けていくと奥に行けるということですね。

(林館長)

背の高い書架は配置されないで、通り抜けやすい形での配架になると思います。

(金子委員)

配置的なものを見て思ったのが、今から言ってあまり変わらないでしょうけど、駐車場が奥の方にあるので、車で来て駐車場に止めた人は、メインのエントランスじゃなく裏口みたいなところから入っていくということになるんだろうと。2階に子ども向けお話しスペースがあるということは、2階に置くことがいいのか悪いのか。子ども連れで来た人は、入り口が近い方がいいのかなと素人的には思うんですが、2階の奥、2階に上がったところにつくった訳は何かあるのか、意図とか理由があるのかなあと思いました。

(林館長)

これについてはコミュニティ機能、住民が様々な目的で入って来るところで、コミュニティ機能を1階にもってきたところが大きなところで、また、アートギャラリーとか展示機能を持たしていくところで1階に持ってきておりますので、目的を持った人、持っていない人もできるだけそこに来ていただきたいと考えての1、2階のスペース分けだったと思います。主たる図書館機能の部分としては、2階部分が中心になってくると思います。ただ、雑誌であるとか1日利用される方については、エントランス部分に雑誌コーナーを置いたり、新聞もくるとしますので気軽に利用される方については、比較的入りやすい位置に配置されてくることだと思います。

(金子委員)

あともう一つ、学習コーナーの真裏が線路ですけど、かなりうるさくないのかなと気になります。

(林館長)

残念なことか幸いなことか、便数が少ないのでひっきりなしに通るということではないです。自分

もその庁舎でずっと仕事をしてきましたけど、慣れるとそんなでもなかったかなというところがあります。今もすぐ近くにありますが、窓を閉めているとそれほど苦にはならんのかなと思います。

(竹村会長)

図書館の機能が1階と2階部分に分断されていますよね。このあたりはどうですか。

(林館長)

これを分断というのか融合というのか、いろいろな考え方があるとは思いますが、多目的に活用していきたいというところで、1階にもそういう部分を置いているところです。美術館だけ、図書館だけではなく多目的に使えるように、共有できるところは共有化して行って面積が無駄にならないような形で配置していきたいという気持ちの現れだと思います。

(竹村会長)

今の段階から設計をどうのといっても、全く間に合わないとは思いますが、アートギャラリーの前の交流スペースだとどうしても会話があるでしょうし、図書館は分断としか思えないですね。司書の方、スタッフの方が貸し出し、返却カウンター、事務作業所このあたりがメインで仕事をなさって、2階に人員を分けなきゃいけない、目配りしなくてはいけない。図書の側から見ると分断に見えてしまう。私から見ると。美術館から見るといい場所にアートギャラリーがあると思います。もう1点、言い続けて来たのですが、地理と歴史の分野の四万十町の財産、これを展示、保管する場所がここにはないかと。第一歩の初歩的なことに戻ってしまって申し訳ないのですが、四万十川という宝を持っている町として、歴史と地理の部分がないというふうに感じます。その点はどうなっているでしょうか。

(林館長)

そこについては、まだ具体的な配架計画はできておりません。瀬戸内市の図書館を見せていただいた時に、そこも2階建てになっておりまして、1階の目立つところに瀬戸内市の歴史、文化であるとかの部分についての常設展示をしていて、そこに関連本を置いたりしているような形で歴史と図書館との融合というところはやっておりました。そういうような形で、歴史部分であるとか複合的な施設であるというようなところを利点とした展示方法、配架方法は検討していきたいと考えております。当然、四万十川という貴重な財産、地理的な特徴もありますので、そういう部分は常設的な形で一定進めて行くことになると思います。

(竹村会長)

そのスペースはどこになりますか。

(林館長)

そのところまで詰めた話はできておりません。エントランスになるのか、交流コーナーの壁面を利用するとかの形で、できるだけここは、岩本寺を利用されるお客さんも当然来るであろうと想定されますので、そういう方々を想定した部分の展示も今後、考えていくことになると思います。

(竹村会長)

アートギャラリー奥の青い部分の収蔵庫は美術品ですよ。歴史的な収蔵品は。

(林館長)

これは、基本的に美術品の収蔵庫になると思います。

(竹村会長)

そうしか見えないですが、展示だけではなくて、歴史になるとそういった資料、埋蔵品、文化財、埋蔵品じゃないけれど五社さんなんか実物がそのまま置いてある銅矛とか石器、縄文まである。そういった財産を入れて置く場所。交流コーナーに展示する場合、特別のテーマを設定をした場合、谷干城とかテーマがあれば、こういう交流コーナーとか、こういうところで展示はできると思うんですが、資料の保管場所そういうのはやっぱりいいんですけど。

(林館長)

これについては、検討委員会で随分協議を重ねたところ。民具を含めた歴史資料については窪川、大正、十和様々なところにあって保管されているところ。それを一堂に新しい文化施設に保管をして常設展示をするのはスペース的にも難しいところ。どうしても必要な重要な物の保管を中心とした収蔵をしていく、温度管理等が必要な古文書とかそういう歴史的な古文書はそこに保管、基本的に限定されていくのではないかと思うところ。厳密に温度管理が必要でないと分かっている縄文土器とか民具等については、今後、適正配置が進んでいくとするなら校舎を活用して保存をしていくようになっていくのではと思うところ。

(竹村会長)

この中身は、美術と図書に集約されているように見えますね。別棟を建てていただく予算があるのであれば、半平の土蔵なんかを展示場所として活用する。あの土蔵は立派なのでああいうところを活用して造っていただくというのは予算的に無理でしょうから、ここに一緒に入るものだと思ってましたから、ちょっと残念です。

(刈谷委員)

体制図についてお聞きしたいのですが、まちづくり推進室の室長は大元さん。主査とか職員の配置は。

(林館長)

1名は配置されます。ただ、組織としては別なので、この中に名前までは入れていません。

(刈谷委員)

文化的施設整備推進室の主任の松下さんというのは、今、十和におられる方ですか。

(林館長)

そうです。

(刈谷委員)

資料に戻ります。住民説明会の資料の10ページ。令和3年度いっぱいまでサービス計画が肉付けされるということで、委員会というものが新たにできるのですか。

(林館長)

まだ細かに誰にお願いするか決まってないですが、まず、たたき台を作って、検討委員会の皆さんにもんでいただくということになると思います。

(刈谷委員)

委員会はいつできて、スケジュール的なことはこれから決まると。

(林館長)

そうです。

(刈谷委員)

公募委員は検討していますか。

(林館長)

それについてもまだ、具体的にどういう人数配置でやっていくかについても、具体の協議はできてないので、公募にするのか、それとも関連する委員会にするのか今後検討していきたい。

(刈谷委員)

この検討委員会ができた時に図書館協議会も関連してくると思うので、委員会ごとの情報共有であるとか、今どういう話がどう進んでいるみたいなの、各委員会ごとの人が知らないのではなく、分かるように知らせてもらえばと思います。

(林館長)

はい。

(金子委員)

文化的施設整備推進室の室長となる大河原信子さんという方は、どういう方なのか。どういう経緯でうちの室長となり、いつまでいるものなのか教えていただきたい。

(林館長)

今、岡山県津山市の市立図書館の館長さんで、ずっと図書館の司書から始まって最終的に図書館長で、この3月31日をもって定年退職されるという方です。津山市の特徴として岡山県の北部の方に位置しておりまして、美作大学とか大学があるということで図書館と大学の連携、地域の連携とか、地域連携が非常に有名なところ。地域連携のシステムを構築して運用していた経験があるということで、四万十町でも知見を活かして、大正、十和地域の図書館とも連携していくこと、学校図書

館とも連携していくことをうまく体制として構築できないかというところで招聘をさせていただきました。ゆくゆくは、そういう知見を活かして館長を務めていただければいいとは思いますが、まずは整備推進室の方で整備について土台作りをしていただくと。当然サービス計画等についての協議には入っていただくというところで、どのような形で進めていったら図書館として機能していくのかの部分について、今までの経験を活かしてやっていただきたいところで招聘をいたしました。

(竹村会長)

町の職員となられるわけですか。

(林館長)

職員といっても、会計年度任用職員ということで、今までなら嘱託という形で雇っておりましたが、そういう制度が会計年度任用職員という制度に移ってきましたので、会計年度任用職員という形での雇用となります。

(金子委員)

関連はしないのですが、今回、大河原さんが会計年度任用職員でいらして、ゆくゆくは、この方が館長さんになってくれるかもしれないし、その後も代替わりして館長とか職員さんが増えていくと思うのですが、結局こういうものを造ってもスタッフというか運営している人によって、できることできないことが全然変わってくると思うので、できたら今後ここを担っていく人をきちんと予算をかけて雇用して育てていって欲しいなと思います。こういうものを造ってますと町民向けに配られた資料もすごく、こんなこともできるようになりますと書いてあるんですが、見ても、物ができて利用する方がちゃんとしていないと実現できないことを書いてあるので、今まで物ばかりに視点が置かれてますけど、働く人をどうするかに重点を置いて、新たに検討委員会が立ち上げるようですけど、そういうことに重点を置いて話をしてもらいたいという要望です。

(林館長)

ありがとうございます。まさにその通りで。今、担当レベル、事務局レベルではそういう必要性があるということで、大河原さんがいる間に次の館長候補、ゆくゆくは、文化的施設を担っていける人材を採用して育成していきたいということは考えています。それが図書館の司書になるのか、学芸員になるのかは、今後変わって来るとは思いますが、新しい施設を回していくというところ、それらの継続性をもってやっていくというところは十分考えて、職員採用についても要望していきたい。そういう方向性で今の執行部も考えてくれていますので、やっていきたいというところで考えております。

(竹村会長)

先程の作図、アートギャラリーの 80 m²というのは今の美術館の床面積からみてどうなりますか。

(林館長)

ほぼ一緒です。前の交流コーナーと一体化できますので、アートギャラリー単独というより、単独

でも使えますし、交流コーナーも使えるということで、多目的な利用もできるかなど。今より規模の大きな展示会もできるだろうし。

(竹村会長)

壁が動くとか。

(林館長)

壁が動くか取り外せるか、そこはうまくできるのでないかと。

(刈谷委員)

金子委員の意見と似ているというか、要望として。今、会計年度任用職員の官製ワーキングプアとか世間では問題となっていて、それは働いている人自身ではなく、役場で働く人というのは町民に対してのサービスを行う仕事だと思うので、ワーキングプアで町民が十分なサービスを受けられなかったり、質が落ちてしまったりとか、そういうことにもつながってくると四万十町全体のことにもなってくるので、職員体制については、ずっとこの委員会の中でもいろんな方がご意見されていると思います。新しく図書館ができるにあたって、ちゃんと人に投資できるような体制というものを四万十町全体で考えていってもらいたいと思っていて、特に図書館とか学校図書館というところは緊急度的に下に下がっていくと思うので、そうではなく、ここに書いている子ども達の未来に投資できる施設に働く人達にも投資できるような体制を整えていって欲しいなと思います。

(林館長)

ありがとうございます。本当にその通りで、今日の出された意見をできるだけ追い風にして、今後の計画に進めて行きたいと思えます。官製ワーキングプアをつくっている自分としては、非常に恐縮です。がんばってやってくれているスタッフに報いることも大切です、新たなことを継続していくうえで安定的な雇用、人材の確保というのは不可欠ではないかと思っております。

(竹村会長)

ほんとに今のスタッフの方たちは、まさに一生懸命にやっただいただいている。よくわかります。ご苦労様です。次にその他の2番目をお願いします。

【事務局より、質問事項の回答について説明及び協議】

— 閉会 —